

令和２年度病虫害発生予察予報第12号（令和３年３月）

令和３年３月４日

高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生量※
促成キュウリ	べと病 うどんこ病 黄化えそ病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	<u>多(中西)</u> 、 <u>やや多(中央)</u> 、 <u>平年並(西)</u> <u>やや多(中央、西)</u> 、 <u>やや少(中西)</u> <u>多(中西、西)</u> 、 <u>やや少(中央)</u> <u>多(中西)</u> 、 <u>やや多(中央)</u> 、 <u>やや少(西)</u> <u>多(県下全域)</u>
促成ナス	うどんこ病 黒枯病 すすかび病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	<u>やや多(東)</u> 、 <u>少(中央、西)</u> <u>多(中央、西)</u> 、 <u>やや少(東)</u> <u>多(西)</u> 、 <u>やや多(中央)</u> 、 <u>平年並(東)</u> <u>少(県下全域)</u> <u>やや多(西)</u> 、 <u>やや少(中央)</u> 、 <u>少(東)</u>
促成ピーマン ・シシトウ	うどんこ病 斑点病 黒枯病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	<u>多(中西)</u> 、 <u>やや多(中央)</u> 、 <u>やや少(東)</u> <u>多(中央)</u> 、 <u>平年並(中西)</u> 、 <u>やや少(東)</u> <u>多(東)</u> 、 <u>やや多(中央)</u> 、 <u>やや少(中西)</u> <u>平年並(中央)</u> 、 <u>少(東、中西)</u> <u>多(中西)</u> 、 <u>平年並(東、中央)</u>
促成トマト	葉かび病 すすかび病 うどんこ病 黄化葉巻病 タバココナジラミ	<u>多(中央)</u> <u>多(中央)</u> <u>多(中央)</u> <u>少(中央)</u> <u>多(中央)</u>

※ （ ）内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部
 県東部：安芸市、室戸市および安芸郡の町村
 県中央部：高知市、南国市、香美市、香南市、長岡郡・土佐郡の町村、
 吾川郡いの町および高岡郡日高村
 県中西部：土佐市、須崎市、高岡郡(日高村を除く) 町村および吾川郡仁淀川町
 県西部：四万十市、宿毛市、土佐清水市および幡多郡の町村
 なお、野菜は「土佐市」を中央部に入れています。

I 気象予報（高松地方気象台 2月25日発表）

2月27日から3月26日までの天候見通し

<特に注意を要する事項>

期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。

<予想される向こう1か月の天候>

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

向こう1ヶ月の平均気温は、高い確率70%です。降水量は、多い確率50%です。
日照時間は、少ない確率50%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率70%です。2週目は、高い確率70%です。
3～4週目は、高い確率60%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）>

期間	対象地域	要素	低い(少ない)		平年並	高い(多い)	
1ヶ月	四国地方	気温	10	20	70		
		降水量	20	30		50	
		日照時間	50			30	20

<気温経過の各階級の確率（%）>

期間	対象地域	低い		平年並	高い
1週目	四国地方	10	20	70	
2週目		10	20	70	
3～4週目		10	30	60	

<予報の対象期間>

1ヶ月：2月27日（土）～3月26日（金）

1週目：2月27日（土）～3月5日（金）

2週目：3月6日（土）～3月12日（金）

3～4週目：3月13日（土）～3月26日（金）

II 病虫害発生予想

1 促成キュウリの病虫害

1) ベと病

予 想 発生量：多（中西部）、やや多（中央部）、平年並（西）
根 拠

(1) 2月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は県中西部で平年よりも多く、中央部で平年並、西部でやや少なかった。発病程度は中西部で平年よりも高く、その他の地域では低かった。

(2) 3月の気温は平年よりも高く、降水量は多いと予想されているため、既発ほ場を中心に病勢が進展し、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気などにより、ハウス内湿度の低下に努める。

2) うどんこ病

予 想 発生量：やや多（中央部、西部）、やや少（中西部）

根 拠

- (1) 2月の調査では、県下全域で発生が見られたが、発生面積、発病程度は各地域とも平年並以下であった。
- (2) 3月の気温は平年よりも高く、降水量は多いと予想されているため、既発ほ場を中心に病勢が進展し、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1)他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

3) 黄化えそ病

予 想 発生量：多（中西部、西部）、やや少（中央部）

根 拠

- (1) 2月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は県中西部、西部で平年よりも多く、中央部で少なかった。発病程度は西部で平年よりも高く、その他の地域は平年並であった。
- (2) 2月の調査では、各地域とも先月以降も新たな発生が見られている。また、媒介虫であるミナミキイロアザミウマは県下全域で発生が見られ、発生面積は中西部で平年よりも多く、その他の地域では平年並以下であった。
- (3) 3月の気温は平年よりも高めと予想されており、本病の媒介虫であるミナミキイロアザミウマの密度が高まると見込まれ、既発ほ場を中心に発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1)媒介虫であるミナミキイロアザミウマの防除を、低密度時に徹底する。また、罹病株は早期に除去し、埋設するなどの処分を行う。

4) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：多（中西部）、やや多（中央部）、やや少（西部）

根 拠

- (1) 2月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は中西部で平年よりも多かったが、その他の地域は平年並以下であった。発生程度は西部で平年よりもやや高く、その他の地域は平年並以下であった。
- (2) 3月の気温は平年よりも高めと予想されており、本虫の増殖に好適となることから、既発ほ場を中心に発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

5) タバココナジラミ

予 想 発生量：多（県下全域）

根 拠

- (1) 2月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は各地区ともに平年よりも多く、発生程度は中央部で平年よりも高く、その他の地域は平年並であった。
- (2) 3月の気温は高めと予想されており、本虫の増殖に好適となるため、既発ほ場を中心に発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫は生長点付近に産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。

2 促成ナスの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量：やや多（東部）、少（中央部、西部）

根 拠

- (1) 2月の調査では、県東部のみで発生が見られ、発生面積は平年並、発病程度は平年よりもやや高かった。
- (2) 3月の気温は平年よりも高く、降水量は多いと予想されているため、既発ほ場を中心に病勢が進展し、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 黒枯病

予 想 発生量：多（中央部、西部）、やや少（東部）

根 拠

- (1) 2月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は県中央部、西部で平年よりもやや多く、東部では少なかった。また、発病程度は中央部で平年よりも高く、その他の地域は低かった。
- (2) 3月の気温は平年よりも高く、降水量は多いと予想されているため、既発ほ場を中心に病勢が進展し、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気などにより、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3) すすかび病

予 想 発生量：多（西部）、やや多（中央部）、平年並（東部）

根 拠

- (1) 2月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は県西部で平年よりも多く、その他の地域では平年並以下であった。発病程度は西部で平年よりも高く、その他の地域は低かった。

(2) 3月の気温は平年よりも高く、降水量は多いと予想されているため、既発ほ場を中心に病勢が進展し、発生は増加すると考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気などにより、ハウス内湿度の低下に努める。

(2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

4) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：少（県下全域）

根 拠

(1) 2月の調査では、県東部のみで発生が見られ、発生面積は平年よりもやや少なく、発生程度は低かった。

(2) 3月の気温は平年よりも高めと予想されていることから、本虫の増殖には好適となるものの、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着しているため、減少傾向で推移するものと考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

5) タバココナジラミ

予 想 発生量：やや多（西部）、やや少（中央部）、少（東部）

根 拠

(1) 2月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は県西部で平年よりも多く、その他の地域は平年並以下であった。発生程度は西部で平年よりも高く、その他の地域は低かった。

(2) 3月の気温は平年よりも高めと予想されていることから、本虫の増殖には好適となるものの、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着しているため、減少傾向で推移するものと考えられる。

対 策

(1) 本虫は生長点付近に産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。

3 促成ピーマン、シシトウの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量：多（中西部）、やや多（中央部）、やや少（東部）

根 拠

(1) 2月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は県中西部で平年よりも多く、その他の地域は平年並以下であった。発病程度は各地域ともに平年並以下であった。

(2) 3月の気温は平年よりも高く、降水量は多いと予想されているため、既発ほ場を中心に病勢が進展し、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1)他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 斑点病

予 想 発生量：多（中央部）、平年並（中西部）、やや少（東部）

根 拠

- (1)2月の調査では、県中央部、中西部で発生が見られた。発生面積は県中央部で平年よりも多く、中西部でやや少なかった。発病程度は両地域ともに平年よりも低かった。
- (2)3月の気温は平年よりも高く、降水量は多いと予想されているため、既発ほ場を中心に病勢が進展し、発生は増加すると考えられる。。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気などにより、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3) 黒枯病

予 想 発生量：多（東部）、やや多（中央部）、やや少（中西部）

根 拠

- (1)2月の調査では、県東部、中央部で発生が見られた。発生面積は東部で平年よりもやや多く、中央部で平年並、発病程度は両地域とも低かった。
- (2)3月の気温は平年よりも高く、降水量は多いと予想されているため、既発ほ場を中心に病勢が進展し、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気などにより、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

4) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：平年並（中央部）、少（東部、中西部）

根 拠

- (1)2月の調査では、県中央部のみで発生が見られ、発生面積、発生程度とも平年並であった。
- (2)3月の気温は平年よりも高めと予想されており、本虫の増殖には好適となるため、既発ほ場を中心に発生は増加すると考えられる。ただし、タバコカスミカメなどの天敵が定着しているほ場では減少傾向で推移すると考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

5) タバココナジラミ

予 想 発生量：多（中西部）、平年並（東部、中央部）

根 拠

- (1) 2月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は県中西部で平年よりも多く、その他の地域で平年並であった。発生程度は中西部で平年よりもやや高く、その他の地域では低かった。
- (2) 3月の気温は平年よりも高めと予想されており、本虫の増殖に好適となることから、既発ほ場を中心に発生は増加すると考えられる。ただし、タバコカスミカメなどの天敵が定着しているほ場では減少傾向で推移すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫は生長点付近に産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。

4 促成トマトの病害虫

1) 葉かび病

予 想 発生量：多（中央部）

根 拠

- (1) 2月の調査では、発生面積は平年よりも多かったが、発病程度は平年並であった。
- (2) 3月の気温は平年よりも高く、降水量は多いと予想されているため、既発ほ場を中心に病勢が進展し、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気などにより、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

2) すずかび病

予 想 発生量：多（中央部）

根 拠

- (1) 2月の調査では、発生面積は平年よりも多かったが、発病程度は低かった。
- (2) 3月の気温は平年よりも高く、降水量は多いと予想されているため、既発ほ場を中心に病勢が進展し、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気などにより、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3) うどんこ病

予 想 発生量：多（中央部）

根 拠

- (1) 2月の調査では、発生面積は平年よりも多かったが、発病程度は平年並であった。
- (2) 3月の気温は平年よりも高く、降水量は多いと予想されているため、既発ほ場を中心に病勢が進展し、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1)他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

4) 黄化葉巻病

予 想 発生量：少(中央部)

根 拠

- (1)2月の調査では、新たな発生は見られなかったが、媒介虫であるタバココナジラミの発生は平年よりも多かった。
- (2)3月の気温は平年よりも高めと予想されており、本病の媒介虫であるタバココナジラミの発生は増加すると見込まれるが、本病の発生が少ないことから、発生の増加は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1)媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。また、罹病株はほ場外に持ち出し、埋設するなどして処分する。

5) タバココナジラミ

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

- (1)2月の調査では、発生面積は平年よりも多く、発生程度も高かった。
- (2)3月の気温は平年よりも高めと予想されており、本虫の増殖に好適となることから、既発ほ場を中心に発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1)本虫は生長点付近に産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。また、本虫は黄化葉巻病を媒介するので注意する。

農作物の病虫害防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病虫害防除所ホームページ (こうち農業ネット)

- ①病虫害発生予察月報、病虫害発生予察予報
- ②病虫害発生予察注意報、病虫害発生予察警報、病虫害発生予察特殊報
- ③病虫害発生予察技術資料
- ④新しく問題となっている病虫害 etc.